

続く挑戦、未来をつむぐ

大雄会の挑み人

スタッフ特別インタビュー

大雄会第一病院
透析センター
臨床工学技士



大雄会第一病院透析センター勤務。2022年4月新卒入職以降、人工透析の機器に関する業務を中心に、医療機器管理や体外衝撃波結石破碎治療(ESWL)などに携わり、日々研鑽を重ねている。

※所属・肩書等は取材時（2024年2月時点）のもの です。

続く挑戦、未来をつむぐ。



社会医療法人

大雄会

大雄会は、共に未来をつむいでいく仲間を募集しています

募集職種・条件等は、お気軽に
採用担当までお問い合わせ下さい

採用担当
直通電話

0586-24-8891

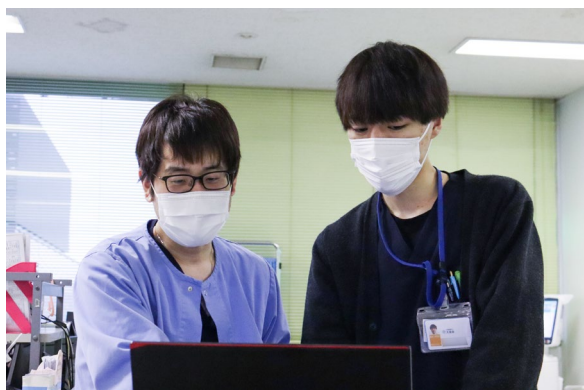
受付（平日のみ）
8:30～17:30



大雄会ではどんなお仕事をされていますか？

人工透析業務を中心に色々な業務に携わらせていただいています。医療機器管理業務や体外衝撃波結石破碎治療業務（ESWL）、総合手術室でのda Vinci業務などです。大雄会第一病院所属ではありますが、総合大雄会病院所属の臨床工学技士と主に泌尿器科・呼吸器外科領域の手術等と一緒に仕事をさせていただき、交流もできています。

大雄会でのお仕事のやりがいを教えてください。



私が主に働く透析センターでは、慢性腎不全や急性腎不全などの患者さんが透析治療や特殊な血液浄化治療を受けます。臨床工学技士はこの透析装置の管理や運用を担当し、患者さんの生命を支える役割を果たします。また、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士などと協力しながら、患者さん一人ひとりの治療計画に参加し、その一員としてチーム医療の提供に貢献することができます。その中で患者さんと直接関わり、その方の健康状態や生活の改善に寄与し、生命を支える重要な役割を果たすことに大きなやりがいを感じます。

臨床工学技士になろうと思ったきっかけは何ですか？

きっかけは、高校時代に受けた生物学の授業でした。そこで生物のしくみや生命現象について学ぶ中で、特に人体の構造や機能に深く興味を持ちました。一方で元々工学系に興味があったため大学では医用工学を専攻し、医療機器の開発や運用について学びました。その中で臨床工学技士という職業を知り、その役割に強く惹きつけられました。医療機器の専門知識を活かして、患者さんにチーム医療を提供し、その生命を支えるという重要な役割に大きな魅力を感じた為、私は臨床工学技士という職業を選びました。



今後、大雄会でどんなことに挑戦したいですか？

臨床工学技士の知識と経験を活かして、新たな医療機器の開発に関与することも可能です。将来的には、自分自身が開発に関わった医療機器が実際の現場で使用され、患者さんの治療に役立つという経験をしたいと思っています。また、医療技術は日々進化しており、新しい機器や治療法が次々と開発されています。私はこれらの最新の医療技術を常に学び続けることで、臨床工学技士としてのスキルと知識を深め、医師、看護師、薬剤師など多職種と連携しながらチーム医療をさらに推進し、患者さんにより効率的で質の高い医療サービスを提供することに挑戦したいと考えています。

